

http://www

# Happy-Hamakan-News (HHN)

## 浜田医療センター附属看護学校

浜医看学発 2014. 12 月

第 1 巻 第 5 号

### 学校祭特集号



#### 目次

■[教師からのメッセージ]	Beyond Borders! -境界を越えよう!-	2
■[保護者からのメッセージ]	看護学生の親の気持ち	3
■[同窓会だより]	5 期生の同窓会の報告をいただきました	4
■[卒業生からのメッセージ]	救命センターに配属されました 5 階南病棟に配属されました	5
■[2年生実習]	老年看護学実習Ⅰ、小児看護学実習Ⅰまとめの会	6
■[老年看護学実習Ⅰ]	老年まとめの会での学び	7
■[小児看護学実習]	小児まとめの会を終えて	8
■[学校祭運営委員会]	学校祭リーダー感想 (運営委員会)	9
■[学校祭地域の方から]	学校祭映画「生まれて」を見て	10
■[学校祭イベント]	「和=(輪)」からイベントリーダーを経験して	11
■[学校祭復興支援]	復興支援係	12
■[学校祭模擬店]	模擬店リーダーの藤上です	14
■[学校祭学校紹介]	学校紹介係	15
■[学校祭フリーマーケット]	学校祭フリーマーケットを通して学んだこと	16
■[学生自治会]	学生自治会26年度前期活動の振り返り	17
■[お知らせ]	今後の予定 編集後記	19

独立行政法人国立病院機構  
 浜田医療センター附属看護学校  
 697-8512 島根県浜田市浅井町 777-12  
 0855-28-7788  
 mail : hiyoko1@lime.ocn.ne.jp  
 http://www.hamakan-nh.jp/

発行責任者 石黒真吾  
 編集責任者 中田佳代子  
 編集 花子紀子、田儀千代美、藤井光輝、隈部直子  
 小田川良子、畑中美保、豊福瑞穂、三家本八千代  
 沖田哲美、郷原章  
 岩成美樹、松野由香、金山和正



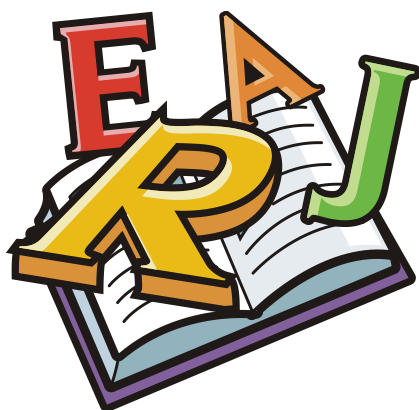
英語講師 平野洋平 先生

2008年度より「英語クラス」を担当させて頂いております、平野洋平です。本校での指導に携わり始めてから7年目になることを考えると月日の流れの速さを感じずにはられません。

本校での指導は、「看護師になる」という明確な目的を持って日々の学びを続けている学生の皆さんが対象ですので、英語「を」学んでもらうことはもちろんのことですが、医療・看護に関連する様々な事柄を、英語「で」学んでもらうことも意識しつつ、これまで指導に当たってきました。学生の皆さんには英語の学習・英語を通じた学習を通じて、様々な「境界」を越えてもらいたいと願っています。

まずは、もちろん「ことばの境界」です。ことばの境界を乗り越えることで、自分と繋がる世界を桁違いに広げることができます。英語が苦手だと言う学生さんもいらっしゃるでしょうが、コンピュータを通して瞬時に世界中と繋がることのできる環境が整ってきた時代であるだけに、日本語を通じたコミュニケーションしか行わない狭いコミュニティ内だけで人生を送るよりは、不完全な英語であることを受け入れながらも、ことばの境界を乗り越え、世界中の様々な人達と繋がる人生を送ることの方が刺激的であるとは思いませんか。また、そうすることで「人間関係の境界」だけでなく「思考の境界」を越えることもできるでしょう。世界中には様々な文化的背景・価値観・宗教観を持ち合わせた人々が存在します。頭ではそういうことを知っていたとしても、実感を伴った経験値にはなかなかかなり難しいものです。様々な背景をベースにした物事の捉え方・考え方の中には、賛同できるものもあれば受け入れ難いものも当然あるでしょう。

しかし、その考え自体もまた、実際にそういう人達との交流を持つことで、変容していく可能性を含んでいます。つまり、様々な境界を越え（ようとす）ること自体が、実は皆さん自身の「人間性の境界」を越えさせてくれることにもなるのです。可能であるならば、若い内に国境という境界を越えて、諸外国の文化を自らの五感を通して体感して見て下さい。貧乏旅行で構いません。その経験は、後に振り返ったときには、掛け替えのない大きな財産になっているはずですから。学生の皆さんには、安易に自分の器や能力の限界を定めてしまうことなく、もっと大きな自分に成長し、もっと大きな世界の中に自分を位置づけるような努力を重ねてもらいたいと思います。「英語クラス」がその一助となるように、こちらも日々研鑽を積みながら指導に当たりたいと思います。私自身も指導者であると同時に大学院生としてまだまだ勉強中の身です。学びを通して成長する上での喜怒哀楽を本校の学生の皆さんと分かち合っていければ幸いに思います。



## 看護学生の親の気持ち

2年生 石倉悠さんのお母さん 石倉康子 様

浜田医療センター附属看護学校へ入学して一年六ヶ月、学校生活の半分過ぎました。入学当初は、初めての一人暮らし、家事ができるわけでもなく、同郷の友人がいるわけでもなく、とても心配しておりました。もう少し色々な事を教えておけば良かった、遠くに出すのではなかったと後悔しました。

しかし、すぐに生活にも慣れ、友達もでき、良い先生方に恵まれ、勉強に実習に忙しい毎日を過ごしているようで安心しています。中学生の時の職場体験で介護老人保健施設へ行った事がきっかけで、「看護師になりたい」と勉強してきました。看護師は、人の命にかかわる大変な仕事で、誰もができる仕事ではないと思います。

今、ここで勉強できる事を、先生方・友達・家族に感謝しながら、良い時もあれば悪い時もあり、色々な時があると思いますが、患者さんの気持ちに寄り添うことができる看護師になって欲しいと思っています。無事、看護師となって帰って来てくれる事を願っています。



## 看護学生の親の気持ち

2年生 天野あかりさんのお母さん 天野恵子 様

看護学生として勉強を始めて、1年半が経ちます。入学してから1年生の間は、あくせく勉強して、課題に夜遅くまで取り組むといった感じでした。2年生になってからは、様子も分かり慣れてきたのか、少しだけ余裕を持って生活ができているように思います。

学校の友達とも仲良くしている様子がうかがえ、元気に生活してくれていることを嬉しく思っています。学校祭等の行事でも仲間と協力したり、外部の方々と関わる機会もあり、良い経験をさせていただいていると思います。

看護学校は普通の勉強をするだけの学校とは違い、実際に患者さんと関わる実習もあります。もともとやさしく人のためにしてあげるといったことができる娘ですが、独りよがりな面があり、人との関わりが下手なところがあるので、患者さんに寄り添うことが出来る看護師が務まるのだろうか心配していました。実習では現場で現実と向き合うため、本来の性格や考え方の癖が出て、先生にもそういった所をご指摘いただいているようです。娘は先生方を尊敬しています。尊敬する人からご指導いただき、自分と向き合う機会となり、人としても成長する機会を与えていただいて、ありがたいと思っています。

これまで家族の入院等で何度も泊りがけで付き添うことがありました。その際、お世話になった看護師の方々は皆さん明るく元気だったり、穏やかな感じの方でも気持ちを聞いてくれたり、気にかけてくれる方ばかりで、嫌な気持ちにさせられる看護師の方はいませんでした。

生活していく中で色々なことがあるとは思いますが、現場に出ると切り換えができ、患者さんやその家族、関わる人達に安心感を与えることができる看護師を目指して、これからもがんばってほしいと思っています。



国立浜田病院附属看護学校5期生同期会 2014年11月5日 於ホテルグランヴィア広島

11月5日～6日（於 ホテルグランヴィア広島）私はバスで14時10分にホテルロビーに入りました。みなさんよい年を重ねて素敵なシルバーライフを送っておられる様子がうかがえ、お一人お一人のお話も、心うつ事ばかりで、本当に感動的な同窓会でした。54年は「あっ！！」という間で校歌をうたう時は当時の学生に帰っていました。理想をかかげて、勉学にいそしんでおられた方、又、私の様になんとなく過していた者…。看護の道を学ばせていただいたからこそ・・・今日がある、今の生活があり、感謝の日々があると痛切に思われました。塩道さん、瀬戸さんの みなさんに“逢いたい！！”という強い気持ちが同窓会という形になりました。

この会で、それから、佐々木俊子さんの一期一会のメロディーにのせて、みんなで唄い、佐々木左登子さんのしつとりと、また、歯ぎれのある優雅な日舞に心をよせる事ができました。



佐々木左登子さん



佐々木俊子

卒業生からの  
メッセージ

## 救命センターに配属されました

59期生 笠江智憲

私は、浜田医療センターの救命センターに配属されました。在学中から救命センターに憧れていました。希望していた部署で働ける喜びを感じています。しかし、日々感じる恐怖があります。救命センターに入院する患者さんの多くは、重症の方々です。自分の観察、ケア一つで患者さんの状態がすぐ変化することもあります。このような環境で患者さんを受け持つことは、配属されて5ヵ月経った今でも怖いと感じます。その中でも、少しずつ良くなっていく患者さんが一般病棟に、行かれる時はとても嬉しく感じます。

まだまだ、勉強不足や経験不足から怖いと感じることも多いですが、患者さん一人一人としっかり向き合える、救命センターで看護師として少しずつ良くなっていく患者さんが一般病棟に、行かれる時はとても嬉しく感じます。



卒業生からの  
メッセージ

## 5階南病棟に配属されました

59期生 竹下啓太

5階南病棟に就職した竹下啓太です。5階南病棟は、呼吸器内科、透析内科、整形外科、脳神経外科を対象とした患者様が多い病棟です。就職してから、5ヵ月が経ちますが、患者様に合った看護や関わり方、疾患、治療に対してまだまだ知識不足な状況で、勉強の毎日です。しかし、そんな中でも一緒に相談に乗って下さる優しい先輩方や、同期と励まし合って楽しく病棟で働いています。また、患者様や家族の笑顔が見れた際には、本当にやりがいのある仕事だと働き出して、改めて感じました。これからも勉強が続く毎日となると思いますが、患者様へすこしでも良い看護を提供することを目指して、他のスタッフの方々と協力して、頑張っていきたいと思えます。



2年生 副担任 畑中美保

2年生は、9月2日～12日、9月16日～26日の期間で、シルバー人材センターで活動されている高齢者、ケアハウスで生活している高齢者と関わる「老年看護学実習Ⅰ」と、保育園・幼稚園に通っている小児と関わる「小児看護学実習Ⅰ」を行いました。

それぞれ、老年看護学実習Ⅰのまとめを10月8日、小児看護学実習Ⅰのまとめを10月29日に行いました。実習中に各自や各グループで学んだ事を放課後やホームルームの時間を使って共有し、事例をあげて話し合い、テーマを決めて資料にまとめました。まとめの会当日は、10分～15分の限られた時間で相手に伝わりやすいように工夫して発表を行いました。その後、クラス全員で意見交換の時間を設け、「関わって捉えた特徴をふまえて、相手をどのように捉えたらよいか」と「成長・発達や健康の維持・増進を促すための関わりとは」をテーマに、今後の看護にどう生かしていくかを話し合いました。

老年看護学実習Ⅰのまとめの会では、各グループとも、実習で一緒に行う作業やコミュニケーションを通して、高齢者の特徴、生活や思いを捉えて、更に高齢者の生活のQOL向上に向けての学びをまとめ、高齢者が「生きる」ことや「人の一生」をとらえ、より良く生活できるための支援を考えていたといえます。

また、各グループは、基礎看護学実習Ⅱでの学びをもとに、対象を捉え、相手を大切に、相手の力を活かした関わりができていたか、自己の行動や発言を振り返っていました。

小児看護学実習Ⅰのまとめの会では、各グループは、成長・発達について、保育園・幼稚園の対象を通しての学びを発表していました。これまで学習してきた小児と実際に関わった児の違いを振り返り、家族背景や性格等にも目を向けたという発表でした。グループによっては、各年齢の児の特徴を一覧にし、年齢での変化を分かりやすくまとめていました。小児看護学実習Ⅰでは、成長・発達を促す援助が主に振り返られており、対象との関わり方や、コミュニケーションについて学生自身の問題には触れられていませんでした。実習目標に対して残された課題が明らかになりました。

意見交換では、ディスカッションで意見を出す人が少なく、質問のみで終わってしまい、発信力、傾聴力などが課題となりました。今後役に立っていきたいと思います。



# 老年まとめの会での学び

老年まとめの会リーダー 2年生 船岩愛菜 渡邊摩耶

## 老年看護学実習Ⅰ まとめの会

浜田医療センター附属看護学校 61期生  
平成28年10月8日(木)  
18:10~16:20 第一・二教室



実習期間：前半 9月 2日~9月12日  
後半 9月16日~9月26日  
シルバー人材センター・ケアハウス義田



今回の老年看護学実習Ⅰのまとめの会で初めて運営係をさせていただきました。まず良かった点は期間内に資料を作成し配布できたこととまとめの会が時間内に終わるよう進行ができたことです。

各グループの状況把握、報告・連絡・相談ができたことにより

スムーズに準備ができたと思います。各グループそれぞれ「高齢者の能力を活かす」「個別性に尊重した健康教育」「高齢者の夢の実現に関わる重要性=QOLの向上のために」「言葉と環境が与える影響」というテーマで相手により工夫して発表することができました。

しかし、まとめの会で進行をする際は人をまとめることに苦労しました。会の中で学生の意見をまとめそれを伝え進行することは、誰もが学びを共有できるように一つ一つの質問や解答を解釈する役割があります。進行するにあたり多

くの意見をまとめ討論できるよう投げかけることができませんでした。このことにより活発な意見交換とはいかず深い学びができなかったことが心残りです。この反省の改善点として、経験を積むこと、人任せにするのではなく一人一人が主体的に会に参加することが大切であると思いました。反省点もありましたが、自分たちの中でも意識すれば報告・連絡・相談ができると気づき、今後の会をより良くするきっかけになったと思います。病棟カンファレンスでも活発な意見交換ができ、看護に対してのより深い学びが参加者全員で共有できるようにしていきたいです。

### 目次

1. 1グループ …… P3 ~ P9  
「高齢者の能力を活かす」
2. 2グループ …… P8 ~ P13  
「個別性を尊重した健康教育をしよう」
3. 3グループ …… P14 ~ P25  
「高齢者の夢の実現に関わる重要性=QOLの向上のために」
4. 4グループ …… P26 ~ P30  
「言葉と環境が与える影響」

#### ○ タイムスケジュール

時間	内容
前半	
13:10~13:15	始めの挨拶
13:15~13:30	1グループ発表(15分)
13:35~13:50	2グループ発表(15分)
13:50~14:10	質疑応答(20分)
14:10~14:20	各担当教員の講評(際部先生・畑中先生)(10分)
14:20~14:30	休憩(10分)
後半	
14:30~14:45	3グループ発表(15分)
14:50~15:05	4グループ発表(15分)
15:05~15:25	質疑応答(20分)
15:25~15:35	各担当教員の講評(花子先生・田儀先生)(10分)
15:35~15:45	各グループまとめ(10分)
15:45~16:05	意見交換(20分)
16:05~16:15	中田教育主事の講評(10分)
16:15~16:20	終わりの挨拶


- ※ 1グループ15分の発表時間とする。
- ※ 2つのテーマにわたった発表を行う。
- ※ 質疑応答では各グループに対する質問のみとし、ディスカッションは意見交換時に行う。



# 小児まよめの会を終えて

小児まよめの会リーダー 2年生 天野あかり 福原里紗

**小児看護学実習Ⅰまよめの会**  
 実習期間：前半 9月2日～9月12日  
 後半 9月16日～9月26日  
 石見幼稚園・おおぞら保育園・みのり保育園



浜田医療センター附属看護学校 61期生  
 平成26年10月29日(水)  
 13:10～16:20 第一・二教室

今回まよめの会を行うにあたって、各グループで話し合いを行いました。今まで関わってきた対象者は老年期の方が多かったため、はじめはわからないことばかりだっただけでなく、学校祭の準備と重なり準備期間が十分に得られない状況でのまよめの会となりました。そのため、設定していた提出期限に資料が間に合わないグループが出てきました。そこで私たちは声かけを行いました。声かけを積極的に行ったところ、ギリギリではありましたが当日に資料を配布することができました。私たちはこのことから、期限日だけ声かけを行うのではなく、定期的に行い、各グループが余裕を持って提出できるように促す必要があることを学びました。そして、リーダーだけではなく、メンバー全員が把握



することで、よりスムーズに準備が進むということがわかりました。各グループが余裕を持って提出できるように促す必要があることを学びました。そして、リーダーだけではなく、メンバー全員が把握することで、よりスムーズに準備が進むということがわかりました。各グループの発表内容については、全員が自発的にまよめ方を考え、図やモデルを用いて分かりやすく伝えるなどの工夫をすることで、よいまよめの会を作ることができました。しかし、意見交換では積極的に発言することを躊躇してしまう学生が多かったり、目的・目標を踏まえながら行うということが出来ていなかったりと、反省点が多く見られました。そのため、今までのまよめの会を通して考えた効果的な意見交換の方法を生かして今後のカンファレンスをよりよいものにしていきたいです。実習でお世話になった皆様、ありがとうございました。

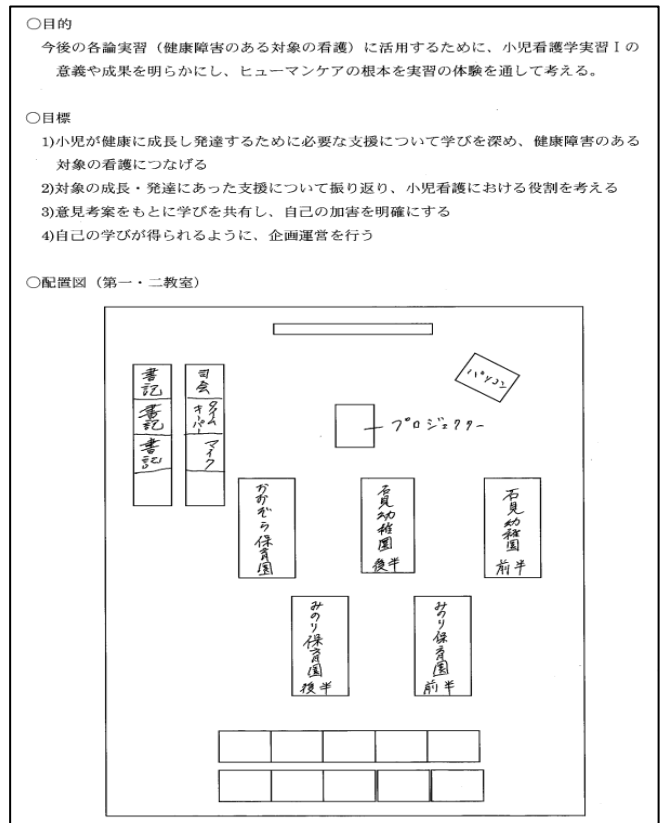
**目次**

1. 石見幼稚園前半……p.3～7  
「環境が児の発達に与える影響」
2. 石見幼稚園後半……p.8～14  
「成長・発達における個別性」
3. おおぞら保育園……p.15～20  
「喧嘩から学ぶ社会性・そこから学んだ各年代の関わり方」
4. みのり保育園前半……p.21～35  
「成長発達を促すためのアセスメントの視点とは」
5. みのり保育園後半……p.36～42  
「園児の能力を踏まえた関わり」

○タイムスケジュール

時間	内容	司会	書記	タイムキーパー	マイク
前半					
13:10～13:15	始めの挨拶	坂根	大屋新治 森廣	小林	小林
13:15～13:25	石見幼稚園前半発表(10分)				
13:30～13:40	石見幼稚園後半発表(10分)				
13:45～13:55	おおぞら保育園(10分)				
13:55～14:25	意見交換(30分)				
14:25～14:35	各担当教員の講評 (藤井先生・小田川先生)(10分)				
14:35～14:45	休憩(10分)				
後半					
14:45～14:55	みのり保育園前半発表(10分)	寺坂	藤上島田	佐々木	田中
15:05～15:15	みのり保育園後半発表(10分)				
15:15～15:55	意見交換・まよめ(40分)				
15:55～16:05	担当教員の講評(豊福先生)(10分)				
16:05～16:15	中田教育主事の講評(10分)				
16:15～16:20	終わりの挨拶				

※必要物品  
 マイク(2本)、パソコン、プロジェクター、机(60個)、椅子(66脚)、ストップウォッチ、ベル





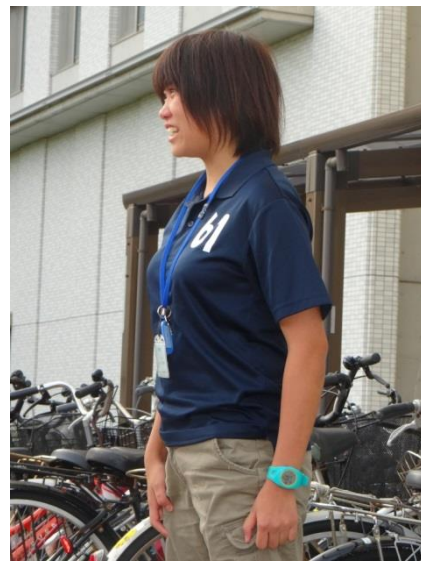
## 学校祭リーダー感想(運営委員会)

2年生 寺坂佳奈子

今年の学校祭のテーマは「幸～広げよう地域への輪 繋げよう未来への絆」として、学校祭当日までの約半年活動をしてきました。学校祭当日は過去最高の2000人の方々に足を運んでいただくことができ、模擬店やイベントで楽しんでいただくだけでなく看護学校についても知っていただく機会となりました。地域の方に「笑顔がいい」などお褒めの言葉も多くかけていただき、学生も笑顔で楽しめた学校祭になりました。

準備の段階では各自がより良い学校祭を作ろうと揉めることもありましたが揉めた数だけ一人一人がリーダーシップ・メンバーシップを学ぶことができ、1年生から3年生まで全学年が協力して学校祭を上げることができたと思います。学校祭当日は多少のトラブルはありましたが予定通り進行することができ、安堵のばかり最後のあいさつで涙を見せてしまいました。私にとってそれくらい学校祭を運営するという事は不安で半年間気が気でなかったですが、無事学校祭のテーマを達成することができ嬉しいの一言に尽きます。

最後に、学校祭を無事開催することができたのは病院の方々、教員の皆様、保護者の皆様、地域の方々の支えがあったからだと思います。本当にありがとうございました。



## 映画「生まれる」を見て

小児保健講師 田淵直子 先生

昨日は大変良い映画を見せていただきありがとうございました。  
 色々な人生、生き方があることを改めて思いました。与えられた命を自分なりに一生懸命生きなければ、罰が当たります。どう生きるかという問いに『正解』などない、悩み、苦しんで到達する『納得解』が大事、それを得た人の前向きな姿勢と笑顔に感動しました。『幸せ』が溢れていましたね。学生さんが、家族を選んできたか、どうかということを話題にしていたのですが、そうはいつでも、やはりこれも『奇跡』の巡り会い、出会いでしょうね。産んだだけでは『家族』にはなれない！悲喜こもごも、晴れの日ばかりではない、雨風、嵐を共にしての時間が『家族』にしてくれるように私は思います。『生む性』である女性も素敵でしたが、それぞれのご主人が素晴らしかったと思います。男は何もできない…いえ、女以上の忍耐が必要のように思いました。奥さん、子ども、家族を包む包容力、女はえてして目先にいきがちですが、男性は先のことも見越しての判断、思考ができる、性差もあると思いますが、どちらか一方が頑張るのではなく、夫婦ふたりで協力しなければ乗り越えられない大きな課題にどう向き合い生きていくかを学ばせてもらいました。みんな初めから立派な大人ではありません。常に相手を思いやる心を持つ大人でありたいと思っはいますが、この年にしてまだまだです…。これからの学生さんは良い映画を見る機会になりましたね。人としての成長を願っています。最後にあった監督メッセージ～「命の大切さを改めて考える、そういった機会が少ないのではないか」…そうかもしれませんね。学校でも努力していますが、十分心の中で消化されるだけの時間的余裕もなく、心に響く取り組みができていないことを反省します。学生さんもここでしっかり考えてもらいたいですね。看護職に携わるには、自分の信念というか、確固たる思いが必要でしょう。期待しています。私もステージは違いますが、同じ大切な命に関わる仕事に就いている者として、これからも、生徒達にしっかり伝えていきたいと気持ちを新たにしました。

寺坂さん達が頑張っていて嬉しかったです。ちょっとみないうちに大人になった感じです。11月7日石央ホールで島根県養護教諭研究大会があり浜田市は、性教育の実践を発表します。そのまとめのような映画を見て勉強になりました。本当にありがとうございました。感想を少しかいてみました。3学期から又よろしくお願ひします。



2年生 天野あかり

この度の学校祭において、貴重なお時間のなか、イベント会場に足をお運びいただきありがとうございました。多くのご来場により大盛況のうちに終了しましたことを、この場をお借りして、心から厚く御礼申し上げます。

今回、全体のテーマとして「幸～広げよう地域の輪、繋げよう未来への絆～」、イベント係は「和(=輪)拡大」というテーマで、人との繋がりを大切にしようという意識で学校祭は行うことができました。この度イベント係は、「ステージイベント」「ハンドマッサージ」「健康スペース」と3ブースを設置し、各ブースに新しい試みを追加しました。ステージイベントでは、素晴らしい合唱を本校音楽講師である真田節子先生率いる「浜田少年少女合唱団」様、力強い和太鼓の演奏を

「石見あらがね太鼓」様、伝統芸能である石見神楽を「大尾谷子供神楽団」様、以上3団体様にご披露いただきました。毎年大盛況である「ハンドマッサージ」では、前年までの悩みであった行列対策として整理券を導入したりとシステムの改善に向けて対策を立てました。「健康スペース」では身体測定や、浜田市役所旭支所浜田地域医療対策課様から骨密度計をお借りして骨密度測定を行い、加えて健康増進の意識付けとして、身体測定の結果を活用した生活習慣病チェックカードの作成を行いました。どれもおかげさまで大盛況のうちに終了し、大変嬉しく思います。



そして、1～3年生で合わせて20名を超える大所帯であるイベント系のリーダーを経験し、多くのメンバーをまとめていくなかで、出演団体様・担当の先生・各ブースとの調整に不備が生じたり、会場設営や出し物以外での細かい動き・内容の不十分さにより、メンバーがどうしたらいいのかわからない、という事態になってしまったこともありました。そして、それをどう解決するか、どう調整したら相手にはっきりと重要な点が伝わるか、と考え、分析していくことで自分自身の未熟な点や考えの傾向・改善点・強みを発見することに繋がりました。また、リーダーとしての責任の重さ、チームを統括していくことの難しさなどをこの経験から沢山学ばせて頂きました。なかなか思い描くようにスムーズに物事を進めることができず、どうしたらいいのか分からず悩み、戸惑うことも少なくありませんでした。しかし、ご指導いただいた先生方やご協力いただいた団体様は勿論、そして、一緒に尽力してくれた仲間のおかげで問題をクリアし、成長させていただけたのだと心から感じています。先生方、先輩方、ご出演いただいた団体様、ご来場いただいた皆様、そして協力してくれた仲間との繋がりを沢山の協力で感じ、終了後には感極まり涙してしまいました。学校祭全体・系のテーマも達成でき、とても良い学校祭になったと思います。

今回リーダーを経験したことで得られた経験・学びを無駄にすることなく、患者様にとって自分は何が出来るのか、自分はどう行動すべきかを考え、その患者様にとって自分が提供できる一番いい看護ができるよう、より一層勉学・実習に励みたいという意識が経験したことで高まりました。ご協力・ご来場いただいた皆様、ありがとうございました。



復興支援係では東日本大震災で被災された方々に看護学生としてできることは何かないのかという思いで活動を始めました。活動としてNHKさんからお借りした被災地の現状についてのDVD上映や被災地の方々が作られた商品の販売、復興のための募金活動を行いました。学校祭1ヵ月前から募金を行ない始め、学校祭当日にはフリーマーケットやイベント係と連携し、また駅北フェスタにも出向き募金活動を行いました。地域の方々から「改めて東日本大震災について考えることができました。」という声をたくさんいただき中には「1年間募金のためにお金を貯めていたんです。」という方もおられました。今回の復興支援係の行った活動により被災地に義援金を送ることができただけでなく、地域の方々に被災地の現状を知ってもらうことができたのではないかと考えます。



また今年の活動では模造紙だけでなく動画や写真を多く使用し、視覚や音などといったことから復興支援について意識してもらえるような呼びかけを行うことができたと思います。今回の学びである効果的に人に伝えるということは今後患者様と関わっていく中でも必要となってくることだと思うので今後の実習で活かしていきたいと思います。

今回募金していただいた30,170円の募金は日本赤十字社に送金を行いました。皆様のご協力ありがとうございました。



2年生 藤上友絵

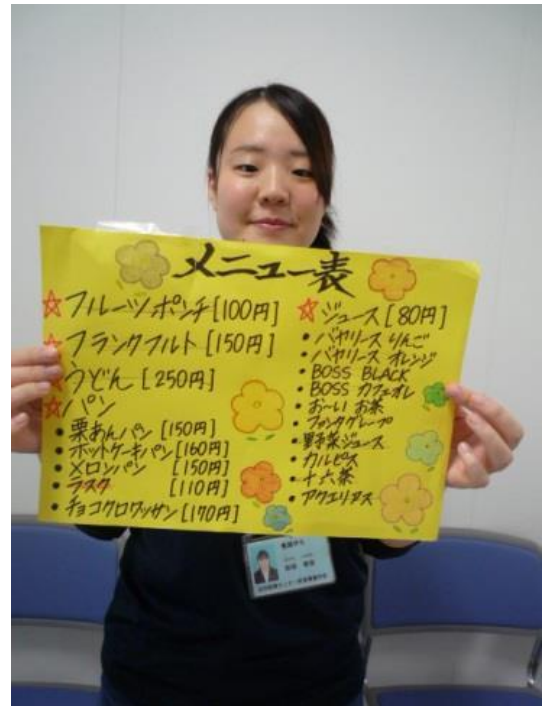
今回の学校祭、模擬店にお越しいただきありがとうございました。  
今回、フランクフルト、フルーツポンチ、ジュースのほかに新しくパンとうどんを追加しました。そして、アンケートを集計し新しく追加したものが人気であることが分かりました。以前から人気であったメニューも食数を増やした結果、皆様のおかげで全メニュー完売し17,160円を売り上げました。本当に感謝しています。

今回フランクフルトのパッケージに、私たち模擬店のメンバーの顔写真と手書きのメッセージを入れることで地域の方々に私たちの顔と感謝の気持ちを伝えるということに取り組みました。生産者側の顔がわかるということで食品に対しての安全面を伝えられるよう取り組みました。

模擬店をして様々なことを学ばせていただきました。リーダーとなって多くのことを学びましたが、模擬店をするにあたって、各学年の協力がなければ行えなかったのでみんなの気持ちを考えながら指示を出し一つのことをみんなでやり遂げることの大切さを学びました。模擬店には、リーダーをはじめ各メニューのリーダー、物品管理、会計、衛生などと係が多いので、私の指示が思ったように伝わらずみんなを戸惑わせたりもしました。思い通りにいかず悩んだこともたくさんありました。そこで、教員や先輩の助言をいただいたりメンバーの皆が各自の役割を把握し講堂してくれたことで成功することができました。今考えれば、悩んだことすべてが自分の糧になりこれからの看護に役立つと思います。貴重な体験をさせてもらい心から感謝しています。今後もより一層、人の気持ちに寄り添える看護師を目標に、日々努力していきます。ありがとうございました。



完了予定日	予定任務	完了日
7月中旬	保健所へ連絡	済み
7月中旬	保健所へ電話し、届けの提出などの調整	済み
	届出用紙ダウンロード	済み
7月中旬	検便の方法、依頼場所の確認	済み
	各メニュー表完成	済み
	ガス会社との配置の相談	済み
	避難経路の確認、火災発生時の対応検討	済み
	各メニューの値段検討	済み
	消毒方法の決定	済み
	検便の方法、依頼場所の決定	済み
	衛生講習会の決定	済み
	従事者名簿、所在地の見取り図および施設の平面図完成	済み
	酒永先生に各メニューの食中毒対策について聞く（メニュー表完成）	済み
	各メニューの値段決定	済み
	各メニューに必要な物品の数、入手方法の決定	済み
	営業届の作成提出	済み
	予算の見積もり	済み
9月上旬	第一回メニュー表修正（栄養士の助言をもとにする）	済み
	各メニュー、ポスター、食券の作成（食券には印鑑を押してもらう）	進行中
	第二回メニュー表修正	済み
	ベッドなどの収納が出来るか実際に行い確認	済み
9月下旬	物品不足の確認	進行中
9/29	衛生講習会	済み
10月上旬	試食会（職員対象）	済み
	第三回メニュー表完成（試食会をもとに修正）	済み
	各メニュー表完成	済み
	当日使う消毒液を確認	済み
	次亜塩素酸・手指消毒の依頼	済
10月上旬	次亜塩素酸・手指消毒の受け取り	
	検便	
	当日の全体シュミレーション	
	最終確認	
10/18	全体の流れの確認	
10/19	下準備	



学校祭  
学校紹介

## 学校紹介係

2年生 清水洋佑

今回の学校祭では、来場していただいた大人から子供まで多くの方々に普段の学生生活や演習の様子、学校行事や実習での姿、地元浜田の紹介をスライドショーや模造紙にまとめたものを見ていただくことができ、本校や浜田について興味・関心を持ってもらうことができました。

来場して頂いた方々からの感想として、女性から驚いた表情で「看護学生ってこんなに大変なんだ」と言う感想や高校生から「本校に入りたい」、益田から来られた方からは「浜田がこんないいところだと知らなかった」など様々な感想をいただきました。来年はもっと多くの方々に見ていただきたい皆さんの感想がいただけるよう掲示方法や内容を検討していきたいと思えます。

最後にここまで指導していただいた先生方、来場して下さった方々本当にありがとうございました。



2年生 若槻美香

平成26年度学校祭、フリーマーケットに多くの方々にお越しいただきありがとうございました。皆様のご協力のもと、昨年度の学校祭よりも多くの物品が集まり、そのほとんどを販売することができました。結果、総額¥105,880の収益を得ることができました。この売上は被災地へ寄付させていただくこととなりました。ご協力ありがとうございました。

物品回収の際には病院の方々に「頑張ってね」などと声をかけていただき、また当日にはフリーマーケットを見に来てくださったお客様とお話することができたりと、フリーマーケットを通してたくさんの方と交流を持つことができ、また学生をはじめ多くの方に資源の大切さを感じてもらうことができたと思います。私自身、準備や当日の販売を通して多くの方々に励ましの声をかけていただき、その言葉が糧となり辛いことや上手くいかないことから逃げずに最後までやり遂げることができ、資源の大切さを実感しました。

リーダーとなり企画・運営をする中で、人との関わり方、まとめることの難しさなどに悩むこともありましたが、仲間と協力しながらやり遂げることで自分にとって大きな力になったと感じています。

この学校祭での学びは看護にも通じるものがたくさんあると考えます。フリーマーケットを通して学んだ資源の大切さ、またリーダーという役割を通して学んだ人との関わり方、まとめることの難しさ、仲間の大切さを自らの力とし、責任感や思いやりのある看護師を目指して努力していきたいと思います。

最後にお世話になりました病院、学校、地域の皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。





自治会長 大島涼

自治会の前期の活動を振り返ると学生がより良い生活を送るために様々な活動を行いました。1つ目は自治会ボードの設置を行いました。学生が思っていることや悩みなどを書いてもらい解決策を考えました内容としては実習が大変でどのようなことをしたらよいかなどでした。また、現在自治会でやっていることや学生に行って欲しいことも自治会ボードに掲載しました。



2つ目は自転車マナーについてのアンケートを行いました。学生の自転車のマナーが悪いと地域の方にご指摘をいただいたためアンケートを行いました。並走と無灯火と信号無視についてアンケートを行ったところ、ほとんどの学生が守ることができていましたが一部では守ることができていない状況でした。交通ルールを守らないことによって地域のかたにも迷惑がかかったり学生のマイナスイメージに繋がったり、事故にもつながるため今後も違反者がいなくなるように定期的にアンケートを行っていきたくと思います。また、前期ではデータ化を行うことができました。これにより学生に視覚的に訴えることができ、交通ルールの意識が高まることに繋がったと思います。そのため今後も続けて少しでも守れない人を減らしたいと思います。

3つ目は、自治会や各委員会の話し合いを行いました。執行部委員会を毎月開き行事が現在どこまで進行しているのか、困っていることはないかななどを自治会の中や委員長で調整、依頼を考えてもらいスムーズに進行を行うため情報共有を行いました。これによって前期は七夕会や生徒総会を成功させることができました。

4つ目はコピー機の検討について行いました。現在輪転機で使用されるマスターとインクは自治会から払っている状況です。しかし、前期では輪転機のマスターとインクの使用、新しくコピー機を購入することが検討されました。現在は輪転機のマスターとインクの値段が規定の範囲であるため今後も継続していきたくと思います。また使用金額が上がれば今後も検討していきます。

5つ目は寄贈品の活用について行いました。電子レンジとソファをいただいていたが活用されていませんでした。そこで各階に憩いの場をつくり寄贈していただいたレンジとソファを設置しました。電子レンジについては二階と三階に設置をして現在は学生が使用しています。ソファについても二階のフリースペースのほうで活用をさせていただいている状況です。



自治会室を設置しました



テーブルセットを同窓会から寄贈いただきました

6つ目は掃除用品の購入・使用について行いました。環境委員会と連携をとりながら前期はクイックルワイパーを購入しました。ほうきだけではきれいにすることができなかつたため購入をしました。現在は教室や廊下などで使用を行っています。後期でも環境委員会と連携をとりながら必要な物品については購入していきたいと思います。

7つ目は浜田駅の活性化について話し合いを行いました。現在出雲のほうでは出雲大社などが盛んであり頭部は盛り上がっているのに対して頭部から西武にくる人が減少している状況です。そこで西武も盛り上げていこうということで学生と駅職員の方と話し合いをおこないました。看護学生としてできることを行いたいと考え血压測定や健康について話し合いを行うことなどを考えました。前期の活動では話し合いの場が一回しかなかったため後期では具体的にどのような活動を行うかを考えて駅の方と連携を行っていききたいと思います。

8つ目は学校チェック表の作成を行いました。学生が学校チェックを忘れていたり行うことができていないことがあったりしたため作成を行いました。作成をしてからは忘れることはなかったですが鍵の閉め忘れなどがありました。そのため、後期ではもう一度学校チェックについて紙を配布して忘れることがないようにしていきたいと思います。

9つ目は節電についての話し合いを行いました。学校での使用する電気代があがったため少しでも節電を行うことにしました。各クラスで話し合い学級委員長が執行部委員会に参加をしてクラスで話し合った結果を発表してもらいました。その結果、具体的な案がでたため実行しました。後期でも暖房の使用などが増えると考えられるため節電を行えるところは行っていききたいと思います。

以上のような活動を行ってきました。全員が自治会員としての自覚をもち学校生活をよりよくするために活動を行うことができました。後期も学生が過ごしやすい生活を送れるように活動を頑張っていこうと思います。



自治会室できあがり



59期生の記念品の電子レンジ！！（上下）





## 今後の予定

- 平成 26 年 12 月 17 日（水）防災遭難訓練、クリスマス会
- 平成 26 年 12 月 19 日（金）終業式
- 平成 27 年 1 月 6 日（火）始業式
- 平成 27 年 1 月 8 日（木）2 年生基礎看護学実習
- 平成 27 年 1 月 22 日（木）一般入学試験
- 平成 27 年 1 月 28 日（水）1 年生基礎看護学実習 I-2
- 平成 27 年 2 月 3 日（火）一般入学試験合格発表
- 平成 27 年 2 月 22 日（日）第 104 回看護師国家試験
- 平成 27 年 3 月 4 日（水）卒業式
- 平成 27 年 3 月 19 日（木）終業式
- 平成 27 年 3 月 25 日（水）第 104 回看護師国家試験合格発表

## 編集後記

Happy-Hamakan-News をお読みいただきありがとうございます。2014 年度最後の号となりました。10 月 駅北フェスタと同時開催の学校祭、3 年生のケーススタディ発表会、3 年生の統合実習、難病フォーラムへの参加、ナーシングセレモニーと数々の行事・実習を終えました。それぞれ成果をあげ、今回学生の取り組みの工夫について発信できること、また今回は講師の先生をはじめ、保護者の方や、実習や行事でご協力いただきました地域の方からメッセージやご意見をいただきました。また 5 期生の同窓会の開催のご報告や、卒業して間もない看護師 1 年目の 59 期生からも学生への応援メッセージを、ご了解を得て掲載させていただきました。

学生は自らの成果や学びを言葉にして発信することが苦手です。様々な法改正や診療報酬改定などの中で、看護を学び、日々の学びを看護学生として、医療・看護・福祉の意味ある情報を提供できるように成長させたいと思います。

この Happy-Hamakan-News の活動が人材育成やしあわせで感謝の心を伝える活動となることを夢見て、学生に大きなエールとなるよう皆さまの活動報告やご意見などをお寄せ下さい。

今年も残り少なくなりました。2015 年素晴らしい年をおむかえください。



オープンキャンパスや受験情報など詳しく  
お問い合わせは



0855-28-7788

浜田 看護学校

